

論文内容要旨

論文題目

ICT による在宅看護実習指導支援プログラムの開発
—訪問看護師の実習指導上の困難感への対応—

教育・研究領域： 生涯生活支援看護学

氏 名： 東海林 美幸

【内容要旨】

訪問看護師の在宅看護実習指導に対する困難感の実態を明らかにし、在宅看護実習指導支援プログラム（以下、支援プログラム）を開発することを目的とした。はじめに筆者らの質的研究より訪問看護師の在宅看護実習指導に対する困難感 13 項目に基づき支援プログラムを作成、続いて全国調査で困難感の実態を明らかにした。その後、訪問看護師に支援プログラムを配信し、介入調査を実施した。

訪問看護師は在宅看護実習指導において、世代の異なる学生の理解、相互に関係性を構築することに困難を感じていることが考えられた。支援プログラムのユーザー数は 1094 件、介入後調査では継続使用希望者が 7 割となり支援プログラムへのニーズが示唆された。ICT による支援プログラムは学生に対する肯定的な理解を促進し困難感を軽減した可能性がある。

令和4年1月13日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学位論文審査結果報告書

申請者氏名： 東海林 美幸

論文題名： ICTによる在宅看護実習指導支援プログラムの開発
—訪問看護師の実習指導上の困難感への対応—

審査委員：主審査委員 古瀬 みどり



副審査委員 森鍵 祐子



副審査委員 小林 淳子



審査終了日：令和4年1月5日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

訪問看護師は、利用者宅への学生の同行訪問を伴う在宅看護実習指導に困難を感じていることが明らかになっている。しかしながら、訪問看護事業所は中・小規模事業所が多く、実習指導に関する研修への参加も難しく、実習指導のための支援体制が十分とはいえない現状である。本研究は、そのような訪問看護師の在宅看護実習指導を支援すべく、ICT（Information and Communication Technology）を活用した訪問看護師の困難感に対応する支援プログラムの開発を目的とした。

まず、申請者が先行研究で抽出した、訪問看護師の在宅看護実習指導上の困難の内容13項目（東海林ら，2019）に基づき、ソーシャルサポート機能による支援プログラムを作成した。次に、訪問看護師の在宅看護実習指導上の困難感の実態を明らかにするため、上記の13項目を含む全国調査をオンラインで実施した。実態調査では247名を分析対象者とした。困難感の得点が高い順に「やる気のない学生への指導」、「訪問看護についての指導が伝わらない」、「訪問マナーができない学生への指導」、「学習状況が不明確なときの指導」であり、実態調査に回答した訪問看護師宛に支援プログラムを配信した。支援プログラムのユーザー数は1094件、アクセス数は1回使用が最も多く、一部のユーザーは継続使用した。支援プログラム配信後の介入後調査に回答したのは45名であった。困難感得点は「指導方法への不安」で上昇したが、「いまどきの若者への指導」、「やる気のない学生への指導」で有意に低下するという結果であった。これらの結果より、訪問看護師は、世代の異なる学生の理解、相互に関係性を構築することに困難を感じていることが考えられた。また、支援プログラムのユーザー数は1094件、介入後調査では継続使用希望者が7割となり、支援プログラムのニーズが示唆された。ICTによる支援プログラムは、訪問看護師の学生に対する肯定的な理解を促進し困難感を軽減した可能性がある。

支援プログラムは、内容の精査・ブラッシュアップの必要性など、今後の課題は認められるが、訪問看護師による在宅看護実習指導上のニーズを反映し一定の介入効果も確認できた。本論文の功績は看護学の実践に貢献できる知見である。よって、本論文は新知見が得られており、看護学博士論文に相応しく、審査基準を満たしていると判断した。